

代表決定トーナメント戦における競技要項の詳細

秋季中国大会（代表決定トーナメント戦）の競技要項詳細については、下表のとおり行う。

	決勝戦まで（三位決定戦）	決勝戦（代表決定戦）
試合成立	5回完了	
正式試合	7回	
球数制限	あり（一日：90球以内、2日間で130球以内）※4連投禁止	
時間制	あり（2時間制）	なし（時間無制限）
コールド	あり（4回：10点差、5回以降：7点差）	なし（但し、棄権チームは除く）
延長戦	なし	あり（最大9回裏まで）
タイブレイク	あり（1アウト満塁：最大3イニング）	あり（決着がつくまで）
抽選決着	あり（タイブレイク後、同点の場合）	なし
審判	【準決勝まで】球審・一塁・二塁：各チーム、三塁：専属審判（担当は対戦表を参照） 【準決勝から】全審：専属審判員	
禁止事項	一日4試合、一日ダブルヘッダー、ナイターゲーム ※全て原則	

上表の詳解については下記のとおり。

【決勝戦までの適用について】※三位決定戦含む

試合成立ならびに正式試合

試合は7イニングまで行い、時間制を採用する。試合開始から2時間を超えて新しいイニングには入らない。

※ 但し、以下の場合には例外とする。

- 1 試合成立（5回完了）までは、2時間を超えても試合を行います。
- 2 後攻チームがリードしたまま攻撃中に2時間が経過した場合は、その時点で試合を打ち切ります。

コールドゲーム

4回10点差 または 5回以降7点差。（大会中に棄権した場合は、7-0の5回コールド負けとする）

タイブレイク

試合開始から2時間または7回を終了し、同点の場合は次の回から最大3回のタイブレイク戦に入ります。

！重要！タイブレイク戦に入った時点でタイムカウントは止まります（時間制の適用外）

- ・ **タイブレイク戦は正式試合終了後、同点の場合は必ず適用**します。（2時間超えていても必ず実施）
例：5回終了後、2時間を経過し同点の場合は、6回から最大3回タイブレイク戦を行う。
6回終了後、2時間を経過し同点の場合は、7回から最大3回タイブレイク戦を行う。
7回終了後、同点の場合は、8回から最大3回タイブレイク戦を行う。
- ・ タイブレイク戦を行っている途中で**2時間を経過しても、途中で打ち切りません。**
- ・ 最大3回のタイブレイク戦を戦い、**それでも同点の場合は、両チームの最終メンバー9名にて勝敗抽選を行う。**

【決勝戦の適用について】

試合成立ならびに正式試合

- ・ 試合は7イニングまで行い、**時間制を採用しません**。（7回までは時間無制限）
- ・ ※但し、**試合の成立は5回**となります。（野球規則：競技に関する連盟特別規則（少年部・学童部）による）

コールドゲーム

コールドゲームは**採用しません**。（但し、大会中に棄権した場合は、7-0の5回コールド負けとする）

延長戦

- ・ 7回終了し、同点の場合は**最大9回裏まで延長戦を行います**。

タイブレイク

- ・ 9回裏までの延長戦を行い、同点の場合は10回表より、**勝敗の決着がつくまでタイブレイク戦を行います**。

サスペンデットゲーム（特別継続試合）について

降雨及び日没などにより、試合の途中で中止された場合、特別継続試合を適用します。

適用するケース

- ・ 試合が成立する前（5回完了する前）に中止になった場合。
- ・ 試合成立後、7回を完了するまでに、残り時間がある場合。

特別継続試合のルール

- ① 中止となった元の状態から継続するため、**元の試合で交代した選手は出場できない**。
- ② 監督・コーチの交代は認めるが、試合前に大会本部へ変更メンバー表を提出すること。
- ③ **投手の投球回数制限はそのまま生きる（リセットされない）**
- ④ 残り時間は元の試合の経過時間から引き継ぎ、合算で2時間とする。
- ⑤ 特別継続試合の日時、球場、審判員はリーグ役員にて決定する。

注1）特別継続試合は、原則として、**翌日の第一試合**に割り当てられます。

注2）**試合成立後（5回終了後）**に中止となった場合は、リードしているチームが勝利となり、特別継続試合は適用されません。

注3）試合成立後（5回終了後）同点で試合が中止の場合は特別継続試合を適用します。

※タイブレイク中に、中止となった場合は、特別継続試合は適用されず、両チームの最終メンバー9名にて勝敗抽選を行う。（タイブレイクの再試合は行わない）

注4）試合中止の判断は、審判員、大会役員、球場責任者の協議判断によるものであり、当該チームが意見を申し出ることはできない。（日没の場合も含む）